

(様式5)

# 調査報告書

訪問調査日	2008年8月20日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム うえの ( 鹿児島県 )
-------------------	-------------------------

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<b>30</b>

評価調査員の氏名	氏名 <u>石松 成子</u>
	氏名 <u>浜田 千里</u>
事業所側対応者	職名 <u>代表者・管理者</u>
	氏名 <u>田中 幹雄・田中 洋子</u> ヒアリングを行った職員数 4名

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 8月 25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670300864号		
法人名	有限会社 うえの福祉会		
事業所名	グループホーム うえの		
所在地	鹿児島県鹿屋市上野町5200番地1 (電話) 0994-40-3181		
評価機関名	NPO自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年8月20日	評価確定日	平成20年9月16日

【情報提供票より】 (20年8月5日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤11人, 非常勤3人, 常勤換算13,25人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	11,100 円
敷金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

## (4) 利用者の概要(8月5日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名	
要介護1	2	要介護2		2		
要介護3	5	要介護4		7		
要介護5	1	要支援2				
年齢	平均	85・4歳	最低	61歳	最高	97歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	井上病院・小倉記念病院・中原歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者と管理者と職員は地域に根ざしたグループホームにするため、地域住民と協力関係を築いている。併設の通所介護事業の開始により、温泉・マッサージなど利用者も楽しみが増え、笑顔で楽しく毎日を過ごしている。地域行事にも積極的に参加しており、夏祭りに向けて入居者と職員が出し物の練習に励んだりしている。重度化や終末期についても、本人や家族の意向を尊重し、ホームの対応できる最善を尽くすための取り組みをしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 職員を育てる取り組みは、研修は交代で参加を促し、職員会議で報告し、全職員で共有している。同業者との交流も連絡協議会に加入したり、代表者が経営者会議などで意見交換をする等、質の向上に積極的に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、毎日のケアを振り返る機会と捉え、グループホームの役割を考慮して、サービスの質の向上に活かそうと取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の定期的な開催で、ホームへの理解や協力体制ができてきている。夏祭りや敬老会など話し合い、計画し地域との交流につなげるよう努めており、サービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情処理ノートを作成し、面会時や電話などで家族からの相談や意見を聞き、サービス改善に活かす取り組みをしている。運営推進会議に家族の参加も呼びかけ、意見や不満を聞く機会を設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の夏祭り・運動会・グランドゴルフなど積極的に参加している。小学生や地域のボランティアとの交流も行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念を見直し、地域密着型サービスの役割を考えて、地域住民との交流を目指した内容の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議のときに理念について話し共有するよう努めている。理念をホールやトイレなどに掲示し、常に意識して毎日のケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の夏祭り・運動会・グラウンドゴルフなど積極的に参加している。小学生や地域のボランティアとの交流も行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組み、職員の気づきなどにより、ケアの見直しやサービスの質の向上に活かす取り組みをしている。そうと努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の定期的な開催でホームへの理解や協力体制ができている。夏祭りや敬老会など話し合って計画し、地域との交流につなげるよう努めサービスの質の向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者や管理者は、市担当者に日頃から事業所の実情やサービスについて報告や相談をしており、市担当者と協働関係を築いている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らし振りや、健康状態・金銭管理など面会時や電話にて報告している。毎月ホーム便りを発行し、行事の様子など写真を載せて、わかりやすく報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理ノートを作成し、面会時や電話などで家族からの意見や苦情を聞き、サービス改善に活かしている。運営推進会議に家族代表も参加を呼びかけ、意見や不満など聞く機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用者は、先輩職員と勤務を組み、徐々に利用者や仕事に馴染めるよう計画し、利用者への影響を最小限に抑えるよう工夫している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には交代で参加し、参加者は研修報告を職員会議で行い、他の職員と共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会に加入して、情報交換や研修に参加している。代表者も地域のグループホームの経営者と交流があり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方には見学を進めたり面会をしている。利用者を理解し、本人や家族の希望を尊重し、安心して利用できるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、自分の家族のように接しており、入居者から生活の知恵や、保存食など教えてもらいながら、喜怒哀楽を共に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、入居者の思いや意向を聞くよう心がけている。困難な方は家族からの聞き取りや、職員で話し合い、把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族の意見を聞き、ケース会議で主治医や関係者の意見を基に全職員で話し合い、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議で毎月モニタリングを行い、期間に応じて見直しを行っている。期間前でも状態変化や家族の希望があればそのつど計画の見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と相談し、通院介助や理美容院の送迎、墓参りなどの外出の支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。状態によっては往診を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要な場合は主治医や家族と話し合い、特老への申請など支援している。		重度化や終末期に向けてホームで可能な最大限の支援についての対応方針を文書化することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重し、プライバシーを大切にケアを実践している。記録等についても取扱など配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課表はあるが、起床・食事・散歩の時間など入居者のペースにそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は嗜好調査を基に職員が作っている。下ごしらえや片付けなど、できる事をしてもらい、会話を楽しみながら食事をしている。外食をする事もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴やデイサービスでの足湯、温泉利用など入浴を楽しめるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たみ・習字・手紙・買い物・遠足・花見・外食など計画し、楽しみや気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩やテラスでの外気浴・隣接デイサービスの足湯やマッサージなど楽しみにしている。希望にそって買い物や墓参りなど支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の様子に気をつけ、見守りや連携を工夫し、隣接のデイサービスの職員や地域住民の協力もあり、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域消防団や地域住民にも協力を呼びかけ、定期的に避難訓練を実施している。非常用の水や備品も準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を日報に記録し、体重測定を毎月実施している。栄養士資格をもつ職員がおり、嗜好調査を参考に野菜を多く利用した、栄養バランスに配慮した献立を作成している。刻みやミキサー食など配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所から食堂・リビングの様子を見ることができ、テレビやソファが家庭的に配置され、季節の花が活けられ、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れたタンスや置時計などを持ち込み、好みの人形や写真を飾り安心して過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。